

# 葦

大阪発達総合療育センター機関紙  
第33号 2019年春

社会福祉法人 愛徳福祉会

## 大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院



### INDEX

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| ・新年度(2019)のはじめにあたって……………1P | ・井上明生先生に捧げる……………3P |
| ・特集に寄せて……………1P             | ・リレーエッセイ……………3P    |
| ・あさしお園、ゆうなぎ園創立40周年……………2P  | ・イベントトピックス……………4P  |
| ・ゆうなぎ園創立40周年に寄せて……………2P    | ・職員研修実績状況……………4P   |
| ・40周年記念式典・交流会を終えて……………2P   | ・寄付金と寄附物品……………4P   |

### ■新年度(2019)のはじめにあたって

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

梶浦 一郎



桜も満開が過ぎ若葉の季節になろうとしています。世の中がどう変わろうと時期がくれば必ず咲いて、私達を楽しませてくれる貴い自然の営みには感謝の念を禁じ得ません。

昨年のセンターは経営が軌道に乗りはじめ、職員皆さんの意識向上の賜と感謝いたします。

その上有難い事に、新しく31名の若い人たちが入職して頂きました。職場が益々活気づくものと期待しています。

今年の5月からは年号が「令和」と変わります。この「令和」という言葉を聞いた時、とっさに清々しく明るい感じが致しました。万葉の時代から連綿と続いているこの日本の良さが甦る事を願います。

来年5月にはセンターの創立50周年を迎えます。準備に当たる職員は大変でしょうが盛大な、そして有意義な記念事業にして下さい。その一端として、この施設が利用者の方にどう評価されているかを科学的手法で検討したいと思います。それを基にして2020年からのセンターの目指す方向性を探りたいと思います。職員の方には負担をお掛けしますが、総力をあげて正しく厳しい評価を受けてください。

令和元年にふさわしいご活躍をお願い致します。

### ■特集に寄せて

大阪発達総合療育センター センター長

鈴木 恒彦



今年の周辺の桜は入職式に合わせて満開となり、新入職員の皆様を華やかに迎えすることができました。しかし年明け以降の寒暖の変化は非常に大きく、今後も異常気候に対する油断のない防災体制維持と個々の体調管理が求められると思います。

当センター創設時から梶浦理事長と共に奮闘され、職員の長年の尊敬の的であった井上明生先生の1月の突然の悲報には言葉を失い、信じられない思いでした。ひたすら先生のご冥福と、今後の当センターを天から守り頂きたいと祈念するのみです。

2月24日、港分園(あさしお園とゆうなぎ園)の40周年記念式典が盛大に催され、長年関係する方々からのご支援とご苦勞、その成果を理解できました。田川分園長、岩本ゆうなぎ園長、西野あさしお園長の今後の心意気を示された文にあるように、益々の分園の躍進を期待いたします。リレーエッセイには菅さんの控えめな、しかし芯の通ったお考えが述べられています。



## あさしお園、ゆうなぎ園 創立40周年

分園長 田川 哲三

あさしお園は肢体不自由児通園施設として、ゆうなぎ園は難聴幼児通園施設として1978年に開設されました。

現在はあさしお園は主として肢体不自由児、ゆうなぎ園は主として難聴児のための児童発達支援センターとして活動しております。

本年2月24日曜日に40周年記念式典および交流会を開催いたしました。記念式典は梶浦一郎理事長から、創設時の経緯から現在に至るまでの経過、今後もニーズにあった活動を続けてゆくようにというご挨拶で始まりました。次いで来賓の、大阪市福祉局障がい者施策部障がい支援課課長小谷眞様、港区保健福祉センターセンター長（副区長）幡多伸子様、港区社会福祉協議会会長武智虎義様からそれぞれご祝辞を頂きました。ご挨拶に続き、「四十年のあゆみ」というスライドショーがあり、懐かしい顔などが見られました。

「隼」による和太鼓の演奏と、鈴木大阪発達総合療育センター長の乾杯により交流会が始まりました。和太鼓

は体の芯まで響き渡るような迫力がありましたが、「隼」のメンバーの中にあさしお園の関係者が含まれているようで和やかな会となりました。

式典には64名、交流会には212名という大勢の方に参加していただき、本当にありがとうございました。あさしお園、ゆうなぎ園ともに今後さらにニーズにあった活動を続けてゆくよう努力いたします。



ゆうなぎ園長 岩元 康

## ゆうなぎ園 創立40周年に寄せて

港分園（あさしお園・ゆうなぎ園）は40周年を迎え、2月24日の式典には多数のご臨席を賜り、盛大に開催することができました。また、式典後の交流会は両園のご家族も多く参加していただき、和やかな雰囲気の中楽しい時間を共有できました。隼様の和太鼓も圧巻の迫力で、演奏後の体験には園児たちも意欲的に参加していました。

さて、ゆうなぎ園は難聴児通園施設として、大阪市内はもとより府内各市町村、奈良県、兵庫県からも通っていただいています。創立から現在まで約600名の園児が巣立って行きました。その間、新生児聴覚検査の実施率の向上による早期発見、補聴システムの進化や人工内耳装

用児の増加など難聴児に対する医療や機器の進化は目覚ましく、また、手話言語条例の制定やインクルーシブなど障がいに対する社会受容も進んできました。これからも、ゆうなぎ園は40年の歩みの中で培った変わらぬ理念と多様なニーズに応じる柔軟な支援を実践してまいります。

最後になりますが、式典に際し頂戴しました心温まるお祝いのメッセージに心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

あさしお園長 西野 紀子

## 40周年記念式典・交流会を終えて

この式典・交流会は、会場を近くのアートホテルに決められたところから始まり、盛大ではなくとも利用者様や職員がこの10年を振り返り、次の50周年に向けたスタートにしたいと企画しました。

ご来賓の皆様への案内状の発送、式次第は決めたものの、利用者様や元職員の方々への案内が遅れてしまい、交流会がどんな規模で開催できるかやきもきました。そんな中でも、皆様からたくさんの心温まるメッセージを届けていただき、心より感謝申し上げます。

そして、明るく楽しい記念誌の作成に取り組みました。表紙は、「あさしおちゃん」「ゆうちゃん・なぎちゃん」というそれぞれの施設で作ったキャラクターが、気球に乗って虹の彼方に向かっていく、私たちの未来を表しました。

交流会は和太鼓「隼」さんに出演を快諾いただき、迫力満点のオープニングとなりました。最後は、映像で職員総出の「おどるポンポコリン」です。各部署が日常の業務から離れて一致団結し心とカラダが踊りだすような楽しい演出でした。

また、長年お付き合いのある聴覚障がい者通所施設「あいらぶ工房」さんにご協力いただき、「40年ありがとう」の指文字クッキーをお配りできました。

あさしお園・ゆうなぎ園は、新元号“令和”にこめられたように、明日への希望を持ち、それぞれの花を大きく咲かせることができる共生社会に向けて、子どもと家族が生活する地域との連携を大切に他職種、他機関と共有し、「次」につなげる支援を目指していきたいと思えます。

引き続き、皆様からのご支援ご指導賜りますよう、よろしく申し上げます。50周年で、皆様にお会いできることを願って。



# 井上明生先生に捧げる

大阪発達総合療育センター 理事長 梶浦 一郎



井上明生先生が2019年1月27日、急性骨髄性白血病でお亡くなりになったとの報せを受け本当に驚きました。3月にはいつものように外来診察に来ていただけるものとはばかり思っていました。

先生とのお付き合いは60年にもなり余りにも多くの思い出がありますので、主なことだけを申します。1960年水野祥太郎教授から阪大整形外科に脳性麻痺特診を作るように命じられ途方にくれていたとき真っ先に手伝ってくれたのが井上先生でした。それ以来二人で多くの事を実践してきましたが何といても最も重要なことは1970年の聖母整肢園の開設でした。当時は福祉の名において脳性麻痺児は施設収容が最良とされていたのを井上先生は積極的に医療の対象として在宅によるリハビリを実行するため早期発見と早期治療を我が国で最初に実践するための医療施設を創設しました。これが我が国の肢体不自由児行政の一大変革をもたらす事となりその後の肢体不自由児施設

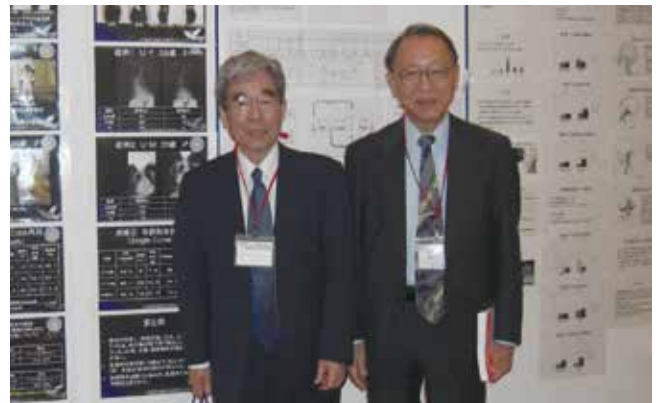
の運営の基準となりました。まさしく井上先生のおかげと確信しています。

1983年に久留米大学教授へと栄転されてからも当センターの事は常に気にかけて年に何回か来られて手伝って頂きました。年月が経っても先生の医師としての原点は若いころの脳性麻痺療育に対する熱い思いにあったと思います。日本全国からの要請があつて各地で股関節の手術を2,000例以上され、お忙しい毎日でお疲れもあつたでしょうが、そのような素振りも見せず、飄々と来て頂いていたあの御姿が見られなくなったと思うとたまらなくさみしくなります。

先生が創られた療育園もこれだけ立派になり先生の意志は継承され発展しています。

どうか安心してお休みください。この60年間先生と一緒に仕事は本当に楽しいものでした。

ありがとうございました。心からご冥福を祈ります。



療育部 なでしこ

## 菅 直樹

葦をご覧の皆さんこんにちは。リレーエッセイ5番目の菅直樹です。5階にある生活介護なでしこで、テラスからの心地よい陽射しを感じ、『センター内の一等地』とも呼ばれる環境でのんびりとお仕事をさせていただいています。よくマイペースと言われ、自分でものんびり屋さんな性格と感じています。

そんな私ですが、意外に興味がたくさんあり、ツーリング・ゴルフ・スノーボード・ボーリング・麻雀などなど（痛風も）…中でもツーリングは特にお気に入りです。風を切って走る爽快感はたまりません。今まで、和歌山・淡路島・四国・京都・岡山と

走りましたが、次は関東方面にチャレンジしてみようとワクワクしています。これからも仕事に興味に楽しんで取り組みたいと思います。



次回のリレーエッセイは、リハビリテーション部理学療法士井上伸さんです。お楽しみに！

# イベントトピックス

## 入職式



4月1日に入職式が執り行われました。

今年は31名の新しい職員の方が入職され、入職式、研修の後、懇親会が執り行われました。

### 職員研修実施状況

H31年1月～H31年3月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成31年1月15日(火) 17:40～18:40	教育研修部	子ども達の明日の幸せを願って 社会的養護の現状と聖家族の家・聖母託児園の生活の様子	社会福祉法人聖家族の家 施設長 山田優氏	64名	5階ホール
平成31年1月28日(月) 17:40～19:00	教育研修部	自閉スペクトラム症のVRシミュレータ体験	国立研究開発法人情報通信研究機構 長井志江氏	85名	5階ホール
平成31年2月22日(金) 17:40～18:40	教育研修部	バングラデシュにおける障がい児者の支援 ～違いをこえて～	日本キリスト教海外医療協会 山内章子氏	42名	5階ホール
平成31年3月6日(水) 17:40～18:40	セフティマネジメント 委員会 教育研修部	医療安全研修 「骨折について」	医療技術部 御勢真一郎長 リハビリテーション部 鶴田ゆかり科長	77名	5階ホール
平成31年3月27日(水) 17:40～18:40	運営局	事業説明会	運営局 梶浦正局長	94名	5階ホール

## 感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます



### 一般寄付金

月	寄付者(敬称略)	
1月分	ダイセル労働組合本社支部	本園
	1月分楽基金 10件	
2月分	2月分楽基金 1件	本園
3月分	坂野 幸江	
	3月分楽基金 14件	分園

### 寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
本園	匿名	紙おむつ
	鈴木一雄	ゴルフ練習道具一式
	松井 孝浩	車椅子
分園	森井 加奈	車椅子
	北田 光輝	歩行器
分園	堂島アバンザ管理株式会社	カレンダー 多数
	ハワイティラウメダ商店会	大型絵本、デジタルカメラ、他
	匿名(複数件)	匿名(複数件)
分園	愛媛県農業協同組合	いよかん 4箱
	セブン・イレブン・ジャパン	生活用品 多数
分園	近畿アイスクリーム協会	アイスクリーム 多数
	卒園児保護者(水原、佐藤、中西)	バスタオル 多数
分園	あさしお園父母会	うごキング



### 大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会  
発行責任者・梶浦一郎

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)  
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)  
主として重症心身障がい児者  
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児  
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児  
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)  
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856  
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)  
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856  
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)  
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児  
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児  
〒552-0004 港区夕凧2-5-3  
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21  
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134